

平成29年度 自己点検・自己評価結果

1. 評価基準

「看護師学校養成所の自己点検・自己評価指針」に基づいて実施した。

(看護師等養成所の教育活動などに関する自己評価指針作成検討委員会まとめ)

2. 評価点

4点：よく当てはまる・・・70%以上満たしている

3点：当てはまる・・・30%～70%満たしている

2点：あまり当てはまらない・・・30%以下しか満たしていない

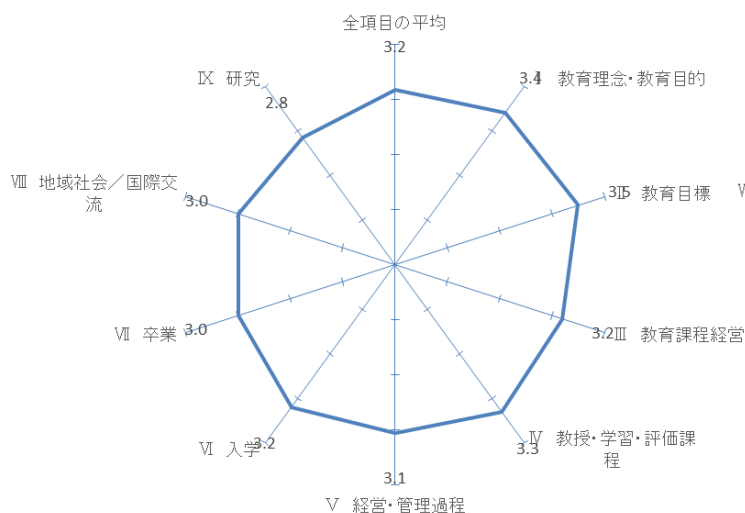
1点：当てはまらない・・・満たしていない

3. 評価者

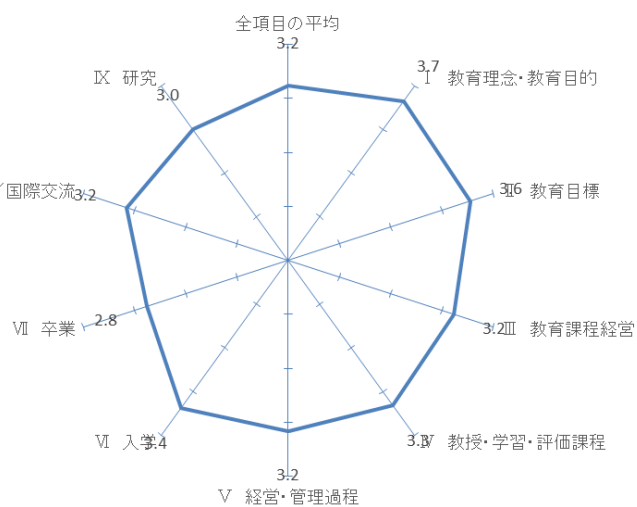
教職員全員（教員・事務）及び担当理事

4. 結果

【3年課程】



【2年課程通信制】



5. 総括

1) 平成29年度の主な取り組み。

①平成28年度評価点が3未満の項目への取り組み（V・VII・VIII・IX）

V・・・経営・管理課程「施設設備の整備」経年劣化による空調の不具合に対して平成29年度、空調設備を更新。学生貸し出し用タブレット端末の購入及び端末使用規定・学校オリジナルの看護技術動画の視聴規則作成による無線LANの円滑な学習への活用の促進。

VII・・・卒業生の活動状況把握への取り組み不足に対して、主たる実習施設への実習アンケート返却の際に卒業生について情報交換。

VIII・・・国際交流については、『平成29年度留学生受け入れ及び留学手続きに関する研修会』へ参加し、2名が修了証を取得。

IX・・・研究発表実績、看護教育学会にて2件・災害看護学会において1件。

②上記以外の主な取り組み

- ・リニューアルした学校案内による学生募集。
- ・健康のしおりを自宅用・学生携帯用 2 冊配布し、健康管理の意識促進を図る。
- ・防災訓練にて、初めて煙脱出訓練を行う。
- ・学年目標の見直し、内容検討開始。
- ・平成 30 年度から追加される 2 年課程通信制、対面授業 10 日の教育計画立案。

2) 自己点検・自己評価は、良い学校作りを目指して実施しており、項目ごとに分析した結果を以下の 3 つの視点でまとめる。

(1) 評価点が 3 点以上で、学校として評価できる項目 (大項目 I・II・III・IV・V・VI)

- ① 教育理念・教育目的に合致した教育目標、育成人材像が明記されており、教育課程経営においても明確な考え方と根拠をもって編成され、教育活動の指針となっている。理念等が、学生・保護者に周知され、学習の指針となっている。実践的な教育活動を目指して、臨地実習における指導者との連携にも努力している。また、防災訓練での煙脱出訓練導入や健康のしおり等、安全教育を充実させる取り組みも行っており、より良い学校づくりに向けて意識高く取り組んでいる事が結果に反映されている。
- ② 主体的に学べるよう特色ある教育活動が工夫されており、学習への動機づけと学習支援のための体制は手厚く、教職員間の連絡・調整・連携が充実している。
授業アンケートの結果を始め様々な方法での授業評価を基に教材研究を行い、常に学生の学習が深化発展するよう努力している。また、外部講師への授業アンケート返却では、学生のレディネスに応じた授業についての情報交換が行われている。
- ③ 経営管理として、空調設備の全館更新・学生貸し出しタブレット端末の購入等、無線 LAN の活用促進の整備に取り組んでいる。
- ④ アドミッションポリシーを基に入学選抜方法の妥当性について検討し、職員間で共通認識されている。

(2) 評価点が 3 点未満の項目の現状と課題 (大項目 VII・IX)

- ① 卒業生の活動状況把握への取り組み不足が継続して課題である。平成 29 年度は主たる実習施設への実習アンケート結果報告の際に卒業生について情報交換の機会を設けた。3 年課程はホームカミングデー等、卒業生が学校を訪れる機会がある為、今後はそれらの機会を活用しての情報収集を検討する。2 年課程通信制は、卒業生の勤務する病院への広報訪問を活用して卒業生の情報収集の機会に充てられるよう検討する。

研究に関しては、学外で研究活動の指導を受けられる体制があることを、周知する必要がある。

(3) 大項目では 3 点以上だが、小項目で 3 点未満の項目の現状と課題

- ① 教育課程経営における教員の授業準備が継続して低評価である。原因としては、学生への個別指導、実習指導や学生についての情報交換等、きめ細かく学生支援を行おうとする授業準備の時間が不足する。各種行事や国試対策クラス運営、実習調整等重複した役割があり個人の授業準備より、全体の役割を優先している教員のジレンマが結果から読み取れる。業務マニュアルを見直し、検討することで業務を整理する必要がある。

- ② 経営・管理課程では、周知不足による評価の低下が考えられる。組織の一員として学校の運営の考え方や財政基盤等説明し、各スタッフへの周知を促す必要がある。
- ③ 国際交流では、外国国籍の学生へ対応できる体制が継続的に低評価である。実際に入学する留学生がなく、学校として要望があった際に対応できる準備が不足していると評価された可能性がある。『留学生受け入れ及び留学手続きに関する研修会』へ参加し、2名が修了証を取得しているが、体制準備についての周知不足であると考えられる。